

ピックアップ!【優良受注企業紹介】
ビジネスパートナー

「お客様に喜んでいただけるものづくり」に徹底し、 多能工化の推進で柔軟な2交代制を実現

株式会社及精鑄造所

一創業が約300年前で業界の老舗ですが、最近の動向などは、

正式には南部鉄瓶の製造工場として大正5年、現在地で会社を設立した事になっていますが、実際には江戸時代の中頃から南部鉄瓶を製造していたようです。

戦後20年間ほどは労働集約型の生産形態でしたが、昭和40年代からは砂処理工程、造型工程等が自動化され、装置産業的になりました。

しかし、どうしても人手に頼らなければならぬ工程があり、それに加えて、この10年余りは、中国等海外製品との競争もあり、経営環境は相変わらず厳しいものがあります。さらには、銑鉄やコークス等原料の値上がり分を製品価格に転嫁できないため、「原料高、製品安」の傾向が続いています。鑄物業は材料があつての産業ですので難しいところではあります。

いずれにしろ、この厳しさが緩和することは期待できませんから、管理部門も含め経営全般にわたる改善、工夫をさらにしなければなりません。

一最近、サンボット花巻工場にペレットストーブの部品を納入されましたが、

「いわて型ペレットストーブ」として県でも力を入れている製品です。名

称のとおり「いわて型」ということで、多数ある部品のうち、一部については鑄物を材料とする部品を採用することでしたので、是非、協力したいと考えていました。

一株式会社クボタさん等の一部上場企業とも取引されていますが、

一例は農機具メーカーの株式会社クボタさんです。これは平成元年頃、当時の中小企業振興公社から紹介され、宇都宮工場に田植機の部品を納入したのが始まりです。

現在、宇都宮工場の再編等によりここからの受注はなくなりましたが、これをきっかけとし、筑波工場や関連会社からトラクターの部品等を受注できました。株式会社クボタさんとその関連会社は主要取引先の一つになっており、結構な売上割合になっています。

ダクタイル鑄物ができるといって、当時の振興公社からはこれ以外の企業も紹介していただいています。

また、受注に関しては、分野の異なる5社から当社の全生産量の20%程度ずつ受注することが理想と考えています。そうすることにより、1社依存により生じる受注量の大幅な減少等の危険を回避すること、そして複数分野の製品を扱いますので技術力を高め

ることが可能になると考えています。

一自社製品も生産しておられますが、最近の自社製品の状況は、

鑄物業の場合、自社製品とはエンドユーザーに製品として提供するものであり、完成品でなければなりません。そのため、自社製品は、結局、工芸品ということになります。

特に、その代表例は長い歴史をもつ南部鉄器ですが、最近は室内装飾品としてのインテリア製品や郵便受け等エクステリア製品も生産しています。

これらの製品は、鑄肌を生かしたもののほか、着色したものも多数あります。デザインや着色等も含め、県の工業技術センターさんから数多くの指導を受けました。工業技術センターさんにはこのほかの分野でも有益な指導をいただいています。

現在、工芸品関係は、全体の売上の15%程度を占めており、これからも地域の貴重な伝統を守り抜き、ひいては当社の存在価値を維持するためにも、南部鉄器は生産を続けたいと思っています。

一厳しい経営環境にあつて、今後、特に力を入れていきたい分野などは、

一面的な見方かもしれませんが、雇

用情勢が厳しいということは、企業にとって買い手市場であり企業は有利な状況にあります。しかし、それは量の問題であつて、質となると話は別です。

現に、当社でも5人採用しても1人が残ればいいというのが実態です。最近では新卒者を採用せず、中途退職者の採用を主体にしています。その方が即効的ですし、背景としては、残念なことですが、新卒者を育て上げる余裕がないということです。

とはいえ、「企業は人なり」ですので、従業員教育には力を入れています。実際、現在でも現場においてOJTを行っているほか、鑄物技術の研修会等は積極的に参加させています。

この結果、一人ひとりの従業員が多能工化し、念願の2交代制も確立できました。今後は、多能工化を推進すること等により、さらに柔軟な2交代制の仕組みに改善し、一層の製造原価の低減を実現したいと考えています。

それと、工芸品関係では、デザイン力の強化が必要です。工芸品の売れ行きの不調は、デザインの良否で決

まるところがありますので、今後この点には腰をすえて取り組みたいと考えています。

一最後に経営者として一番大事に考えていることは、

お客様からの信頼を維持していくこと、これが一番です。そのためには、製造業、それも鑄物業としての原点に立ちかえり、この原点を忘れないことです。

具体的には、お客様があつての及精鑄造所であることを再認識し、極力、お客様の要望を受け入れた「お客様に喜んでいただけるものづくり」を徹底することです。お客様の要望を受け入れ、これを吸収できる企業体質にできればと思います。もちろん「お客様に喜んでいただけるものづくり」の徹底は「言うは易く行なうは難し」の典型であることは承知していますが、

さらには、これらのことを実現したうえで、これまでお世話になった地元に対し何らかの形で貢献ができれば、これほどいいことはないと思っています。



代表取締役社長 及川 敬

企業概要

設立：大正5年4月

代表者：及川 敬

所在地：岩手県水沢市羽田町字
明正147

電話番号：0197-24-7263

URL：http://www.isop.ne.jp/oisei/

資本金：30,000千円

従業員数：46人

生産品目：機械部品、自動車部品、
工芸鉄器

主要取引先：東京部品工業(株)、双葉鑄造(株)、(株)クボタ、(株)サタケ

主要設備：SMS5045型自動造型ライン(500×450×200/200)1基、DISA2110型自動造型ライン(500×400×200/200)1基、F1型造型機(300×350)4基、低周波誘導電気炉(2t)1基、低周波誘導電気保持炉(1t)1基、水冷式キューボタ(2t)2基、ショットプラスト2基、研磨機5基、シェル中子機5基、CNC旋盤(300×300)3基、卓上ボール盤13)8基、ターレット旋盤(300×500)4基、ラジアルボール盤(54)1基、キーシーター1基、旋盤(5尺~6尺)4基、単能盤2基、倣立フライス盤1基、立フライス盤1基、陶磁器用焼付電気炉1基



工業製品



郵便受け



茶釜・鉄瓶